

史話

古文書學の建設者ジャン・マビヨン

と其著デレ・デプロマチカ

小林 秀雄

古文書學が史學に取つて離る可らざる補助學科たることは論述の限でない。然しこの學科が今日までに發達するには相當長い時日を費してゐる。この學科の起源は多くの他の史學の補助學科と同じく、文藝復興の時代に求められるが、この學科が成立するに至つたのは漸く紀元十七世紀であつて、この學科の建設者としてはフランスのジャン・マビヨンを推すべきである。

ジャン・マビヨン Jean Mabillon は紀元一六三二年十一月二十三日フランスのシャンパニユ州サン・ピールモン村に生れ、農夫の子である。彼の少年時代については、彼が非常に羸弱な質であつたことと、主として教育を叔父から受けたといふことのほか詳細なことは判らない。然し彼の内的傾向は彼をして宗教界に没する決心を起した。

紀元一六五三年の彼はレームスに至り、この地のコレギウム及びセミナールに於て宗教的教育を受けた。

は切りに精神上的の教養に勉めたが、同時に彼の歴史的、考古的趣味の萌芽が現れ出した。彼はこの古い市、またこの市とフランク教會及びフランク王國との關係について思を廻らし、休暇によつて故都に歸つた時などには、樫の森の中を散歩して宗教的冥想に耽ると共に、常に近傍の僧院を尋ねて、此處に保存されてゐる古文書、古書等を見ることを無上の樂とした。かくて彼はサン・レミーのベネチクチン教團に屬するマウルス組合の僧院の見習生となつたが、眞面目に教團の嚴格な規律に服ひ、また熱心に研究に從事した爲に、生來羸弱なる彼は著しく健康を害し其後ソアツソンのノガンに移り、更にコルビーに移り、紀元一六五八年から同一六六三年の間は主として靜養に時を費したのであるが、この間に於ても、彼は常にその歴史的、考古的の趣味を棄つるを得ずして、切りに史料を集めて此等僧院の由來を考へ、其建設者を歌うてゐる。紀元一六六四年に至り、彼はサン・デニスに至り、説教家として、寶藏の監理者として活動したのであるが、この際ジャンテロンを叩けてサンベルナル St. Bernard de Clairvaux の作物の校訂に從事するに至り、彼の歴史的傾向は非常な刺激を受けた。間もなく彼はバリのサン・ジェルマン・デ・プレ St. Germain-des-Près に送られることとなつたが、之はこの地の僧院の圖書館長で博學の聞き高かつたルカス・ダシエリー Lucas Duchesne が既に老年であり、且つ常に病氣勝ちであつたので、彼の補助者として彼を迎へたのであつた。彼の歴史家としての活動は實にこの時に始まると見るべきである。

ダシエリーは紀元一六三七年來この書庫の監理者であつて、熱心に之が整理に盡し、また珍書の蒐集に勉めたので、この書庫は當時この教團内に於ては他の書庫に見られない多數の寫本を藏する狀況であつた。ダシエリーは更

古文書學の建設者ジャン・マビヨンと其著デ・レ・デプロマチカ（小林秀雄）

六二

に教團に關して科學的研究を行ふ計畫を立て、團長の許可を求め、かくてベネクト教團の歴史及びマウルス組合の歴史を史料證據及び古文書と共に出版し、此教團に屬する諸聖の傳記を編纂し、また古い著名な教團仲間の神學的並に俗的作物の校訂をなすことゝなつた。

ダシエリーはこの事業を完成するが爲めに、先づ其教團中より適當な人物を選び、また教團外の學者からも贊助者を得たが、また彼は此材料を得るが爲に、フランスの内外に於ける教團の僧院に古文書の組織的搜索を試みた。かくて發見された總ての文書の莫大な目錄が編成され、多數の重要な文書が蒐集された。この蒐集された文書の中、先の計畫に使用し得ない部分は、紀元一六五八年にスピチレギウム *Spitelerium* の名によつて學界に公にせられた。

ダシエリーに取つて最も大なる援助を與へたものはジャン・マビヨンである。之は所謂適處に適才を得たものといふべきである。彼は實に自己を選んで呉れたダシエリーに對して、十分に其地位を充すに足る總ての精神的才能と人格的特質を有し、殊に彼にはダシエリーに對して自己の義務を完成せんとする自然の親切と自信とがあつた。

彼は確に其全人を捧けて彼の要求に應じたのである。

このサン・ジェルマン・デ・ブレリーに於ける事業はマビヨンの天才に依りて非常に迅速に完成され、紀元一六六七年にはサン・ベルナルの作物の新しい出版となり、紀元一六六八年にはアクタ、サンクトルム、オルデニス *Acta Sanctorum Ordinis S. Benedicti* の第一巻を出版し、紀元一六七六年までには其第二及び第三巻、また紀元七世紀及び同八世紀に於ける教團諸聖の傳記の公刊を見るに至つた。併して既に紀元一六七五年には彼のベテラ アナレクタ *Vetera Analecta* の一部が現れてゐる。

マビヨンは此等の作物によつて彼の時代の學者中の第一人者たるを示し、サン・ジェルマン・デ・ブレリーに於ける彼の仲間も直ちに彼等の中の大家たることを認むるに至つた。實にマビヨンは歴史的批判の取扱方に於ては總ての人に優れてゐることを示したのである。吾人は今日も猶彼のオペラ・サン・ベルナルによらねばならず、また紀元六世紀より同八世紀に至る教會、俗界、文化の歴史の説明に、アクタ・サン・クトルム・オルデニス・サン・ベネクト殊に其第一巻を缺くを得ない。マビヨンの批判的才能は至る所正當な道を示し、よくサンベルナルの文書を精査し、紀元六世紀の教團に於て崇敬された八十人の聖徒中、五十五人を非ベネクト派として之を排し、サンデニスの歴史に於ける最古の文書の寫しを眞正なものとして評價した。

彼の教團仲間は彼を讃美した。然し之は彼の研究の性質の爲ではなく、寧ろその結果の爲であつた。彼等はこの今科學的に確定された教團の歴史に自己の誇りを感じたのである。彼等は自己の教團が非常に古く、初よりして有力なりしこと、またその西洋史上、殊にフランク史上の意義が重大となつたのを見て得意がつた。併して彼等は更にバリ及びフランスの學者と共に、マビヨンの偉大なる批判的研究家たる名聲に敬意を感じた時、彼をかの偉大なる名聲ある教團の史家として考へたとき、全く前と違つた特殊の尊敬に満たされざるを得なかつた。

實際マビヨンの科學的な仕事については、この教團の内にも、外にも反對者を缺かなかつた。熱心な信者は堅く教團傳説を固執して、かゝる批判的な取扱を批難した。また全然勝手な理由よりして他のものに疑念を挟む妄評家は彼の科學的批判に満足しなかつた。然しマビヨンはかゝる二種類の相手に對して泰然として彼の位置を守つた。彼はフィリップ・バスチデスの如き熱心な教團仲間中の批難に對して、紀元一六六八年十二月二十六日のかの有名な

古文書學の建設者ジャン・マビヨンと其著デ・レ・ヂプロマチカ（小林秀雄）

六四

書狀によつて、眞理の爲には喜んで無教育者の無謀なる批難を受くべきことを宣言し、彼の批判的取扱を辯護した。彼は靜かに彼の批判の道をすゝむべきことを考へ、總ての反駁の傾向から遠ざかつたが、然し彼はアクタ サンクトルムに附せる如き紀元六、七及び八世紀の古文書の批判の爲には、彼の原則及び方法の辯明上論争文を公にせざるを得なかつた。この論争文は全く彼の方法により、實に彼のみが爲し得る如き方法により、純粹に事實的で、徒らに争議に傾かず、却て總ての争點を取扱ふ上に於て明白に創造的であり、從て又之は同時に批判及び歴史の科學の異常な發展を包含してゐる。

然るに紀元一六七五年はメロビス及びカロロ王家時代の古い文書に關して、批判の問題が其頂點に達したが、之が古文書批判の組織的研究の試となり、併して其結果は直接にマビヨンの今迄の歴史的作业の中樞、また其批判的原則の攻撃となつた。

博學な法學者で、紀元一六四三年にジャンボーランによつて初められた總ての聖徒の作物集アクタ サンクトルム *Acta Sanctorum* の出版に従事して居つたダニエル パーベローグは、紀元一六七五年其著プロビレーウム アンチアリウム *Prophetae Antiquarium* に於て、紀元六世紀の古文書は總て偽作であり、之より古きものは一層疑はしきもので、古いフランク王國の總ての範圍に於て、ダコベルト一世以前には一つの眞正な古文書も發見されないといふことを斷言した。彼は純科學的目的よりしてこの研究に入つたのであるが、アクタ サンクトルムの批判的研究をしてゐる間に、常に古い文書を判定すべき必要に置かれた。彼は筆寫本の史料に對する形式的及び内容的批判の大家として、殊更に古文書史料の非常に不確實なるを感じた。最も彼が初めて古文書の眞、不眞の問題を提

出したといふのではなく、既にこの五十年間は個々の文書の信用價值は裁判上の目的から争はれて居つたのである。唯この争は單純な熱心と頑固に導かれてゐるので、其判定は自然目茶苦茶で、空想と辯證法とが非常な勢力を逞うして居り、全然科學的智識を缺いて居つた。パーベローグはかくて彼の文書批判に確實な原則を作らんと試みたのである。彼は古文書の特徴に注目し、この特徴から規則を作り、之が批判を行ふた。然し此方法は古文書批判としては新しいものではなかつた。

ヘルムスタットの法學者で、博識家であるヘルマン コンリツヒは紀元一六七二年に帝國市リンダウの僧院の權利に關してカロロ王家の文書の眞實、並にこの文書がルイス クロムのものかルイス ドイツチユのものかといふ論議が起つた時に、此等古文書の研究を始め、問題となつてゐる古文書と他の眞實なるものと定つてゐる文書とを比較し、其署名者の筆跡及び姓名を説明し、旅行日記の取扱方の標準を集め、かくて其結論を作り上げた。ハーベルブローグもこの影響を受けてこの方法を採用するに至つたものではあるが、結局其研究の結果はプロビレーウムに宣言さるゝ如きものとなつたのである。

ベネチクチン派、殊にマウリネ派の人々は彼の作物によつて自己の名譽、尊敬及び歴史が攻撃され、其科學的努力と其原則が排斥されたことを感じたのは當然であつた。マウルス派の人々は自然 *Acta Sanctorum* *Calixti S. Benedicti* の作者に向てパーベローグの攻撃に對する反駁を求むるに至つた。然しマビヨンは猶平靜な態度を持して居つた。紀元一六七九年五月二十六日に彼が彼の若い同郷人で、他日熱心な彼の補助者となつたデートリツレ、ルイナに送つた書翰の中に、次の如くいふて居る。私は文書の眞のものと偽のものとを區別することについての論文を

古文書學の建設者ジャン・マビヨンと其著デ・レ・ヂプロマチカ（小林秀雄）

六五

古文書學の建設者ジャン・マビオンとその著デ・レ・ヂプロマチカ（小林秀雄）

六六

書てゐる。長老パーペブローグは私に彼が之に關して提供せる原則を論駁すべき題目を與へた。私はこの規則に誤謬を發見すると。

併して猶二年を過ぎた後、マビオンは爭議の形式に依つて個々の問題に反抗することなく、著作によつてパーペブローグに依りて提議された問題とは深遠な科學的の論點から純粹に事實的に決定した。マビオンはパーペブローグに提議した古文書上の學說の指示に基き、彼の利用した古文書の價值に關する從來の見解を更に調査した。かくて彼に取つてこの研究上材料の擴張が必要であると思はれた。彼は教團の内外の友人及び同情者の援助を得て之を組織的に完成した。マビオンは更に熱心なビカルト ミシヤエル ジエルマンの助力によつてサン デニスの總ての古文書類を研究し、同じマウルス派の博學なるクロート エチエンノーをして南方フランスの古文書を搜索せしめた。また彼等はシャムバニユ、ロートリンヂヤ及び近隣の州に共同の旅行を企てた。またサン パンヌの組合に屬するベネデクチン派は其所藏する古文書を悉く彼等に提示した。而して其後教團外の友人及び援助者ピオンデルーバル、コルベールの圖書館長バルーゼ、フロレンスの圖書館長アントンマグリアベツキ及び其他の人々が、彼等に、必要な文書、特許狀等を提供したので、かくて驚くべき多數の材料が集つた。マビオンは之を精査し、それを研究し、其研究の結果をば彼の學問仲間及びブルーゼ、ツカングの如き他の學者に向つて調査を求めた。かくて當然確實な結果の得られると共に、更に講究を要する新しい論點、新しい問題も發生したのである。マビオンはかゝる新しいものを解釋する爲に全力を用ひた。かくて彼は文書の文學が時代に應じて居るかを判定し得る爲には中世のラテン文學の書體の發展に關して科學的研究を企て、彼の目的に對する戰備として書學 Paléographie なる科學を

作り上げた。彼は非常に多數の文書を得たので、彼に取つては古文書の特徴に關して多數の明白な結果が得られ、パーペブローグの原則の如きは全く個細の問題となり、之に反抗する問題は自ら消滅して終つた。然してこの結果はマビオンをして古文書批判に關して一層の確信を與へ、新しい科學が彼の手中に存するといふ直接な、偶然な印象を得しめた。かくして彼に取つては之を記述し、同時に讀者に新しい科學の範圍と確實とを判定する方法を提供することが仕事の最後の目的となり、紀元一六八一年彼は遂にデ・レ・ヂプロマチカを出版するに至つたが、この作物は實に古文書學なる新科學を建設したものである。これは實に異常な作物で、作者の非常なる博學と才能を示し、また莫大な、非常に枯淡な材料を輕快に、明白に、自由に取扱ふて居り、然も無限の教訓と、文體の明白を失はず、また其材料の乾燥無味なるに拘らず、この作物によりて歴史の大なる必要を示し、數千年の古い傳を公にし確實にしたことによりてフランス教會及び王國の名聲を示したといふ作者の自覺が現れてゐるので吾人の熱心が引つけられる感じがする。レオボルドランケは其フランス史の有名な章ルイ十四世時代の「文學の概觀」中にマビオンの作デ・レ・ヂプロマチカを擧げてゐるのは正當なことである。

吾人は更にマビオンの大作となつて突然現れたこの新しい科學の内容が如何なるものなるかを述べねばならぬ。

マビオンのデ・レ・ヂプロマチカは決して或る原則上に立つ組織的の教科書ではない。マビオンは一般に外部から内部に向ふ傾向を有してゐるが、彼はそれが得られた具體の場合と關聯して唯折々彼の原則が語られてゐる。古文書は總ての時代に於て偽物があり、又種々なる階級のものがある。また多數のものは他の理由によつて消滅す

る。之が爲に總ての古い特權は證明されないのである。いかにして眞物から偽物を區別するか、古文書は總てこの目的の爲に注目すべき特徴を有してゐる。之は既にパーペブローグが認めた通りである。然しパーペブローグは吾人が種類、時代、群、地方に點存せる出来るだけ多數の古文書を比較する場合にのみ初めて確實な標準が得られるものであることを認めなかつた。マビヨンは實にこの比較を試み、併して古文書の記された材料、その形式、それが書かれた方法、書體、句讀法、註記等に注目すべきことを學んだ。其後彼は文體に轉じ、之を古文書その物から知ることを學んだ。然る後彼は種類と時代とに應じて、内容を包括してゐる一定形式の上からして見た文書の時代的範圍、即ち始と終とを示した。かく彼は先づ形式上祈願 *Invocatio*、尊稱 *titulus*、本文 *promissio*、或は *scriptio*、及び祝禮 *salutatio* を發見した。併して彼は終の處に威嚇、呪咀の形式、を發見し、本當の終末に署名及び押印の告知を含む形式、王の署名、秘書の署名等の形式を發見した。マビヨンは此等の個々の形式をも比較した。併して更に彼は古文書の本文が全然一定の特質を有することを發見し、*munus majestatis*、即ち合併稱號の形式、また家族名、異名、の用法、計算報告等を注目することを知り、而して結局モノグラム (氏名頭字の組合せ文字) 印章、證人署名、殊に日附報告に注意深い觀察をすゝめた。此等のことはマビヨンが今注意した特點で、彼は其調査よりして古文書の眞偽判定の標準を得ることを企てた。かくて彼は一定の古文書の種類にある有力な特點の形式の存在することを確定するを得た。

かくて彼の試みた所は自然二様の仕事を要すると思はれ一つは先づある場合其個々の特徴を判定する前に、材料書體、印章、古文書形式の如き特徴の性質及び形式に關して確實な解釋に達することを試みねばならない。次に他方書體のみからでなく、また個々の特徴のみからでなく、ある文書の總ての特徴の全體から其文書を判定せねばならないことである。彼は之に依つて行ふた。彼は個々の場合の文献判定の爲に中古のラテン書學の記述を研究し、個々の印章の判定の爲には印章の總ての範圍を觀察し、日附の批判の爲には日附の本質及び種類の徹底せる研究を行ふた。併して彼は今かゝる基礎から個々の特徴の検査を行ふと共に常に文書の總ての特徴を判定して、古文書批判の完全に確實な結果及び實際に科學的な原則に到着した。彼は之によつて彼の新しい科學の明白に確實な試験をなし、パーペブローグが確實として利用した古文書を遠則であり、偽物であることを證し、またパーペブローグの見解及び規則の取るに足らざることを明にし、パーペブローグすらも自分が完全に辯駁されたことを認むるに至つた。彼はかくて立派に古文書學の建設者となつた。ルイ十四世はルテリール及びボスエーをしてこの有名な僧侶を王宮に召し彼に謁見を賜ふに至つた。

マビヨンはこの後イタリアに旅行し非常に歡迎を受け、また一般に依ての中古研究の大家と認められたが、彼は靜かに其研究をつゞけ、常に病勝ちなりしに拘らず、よく奮闘の生活を營み、其後蒐集したる材料と、新なる觀察によつて紀元一七〇三年に第二版を公にした。然るにこの際マビヨンに對する新しい攻撃の火の手がエズイット教團のジェルモンによつてあげられた。彼はかくて更に紀元一七〇四年に彼の古文書學研究の新材料と新結果とを前書の追加として *Supplementum Librorum de re diplomatica* を公にした。この追加は、彼の學說の正當を證明する幾多の材料を含むのみならず、理論的に非常に教訓に富む説明を有する。かくてマビヨンは古文書學を材料、目的、方法の科學として一般概説をなし、また一般の古文書の群及び種類につき、其批判の爲に行はるべき一般法則に關する

史 一

問題を解決した。

彼は紀元一〇七年十二月二十七日サンジェルマンデブレーに歿した。彼は一般の非常な尊敬を受け、彼の作物は彼の同時代人に依りては、今日吾人の考ふる以上に尊重された。然しこれは彼の時代と彼の努力とより考ふれば當然のことであつたと思ふ。

一 苑